

秩父会場質疑応答

令和2年9月29日（火）19時

住民

中宮地町地内の本管の布設替えをしていただいている。莫大な費用をかけ老朽管の保守や維持管理をしていただいている。感謝申し上げます。

水道は住民にとって目立たないこと、しかし一番重要なもの。

16P、統一料金による、激変緩和措置、水道料金に対する不足分を市町で負担している。今後5年ごとの見直しを実施するとのこと。これから人口が少なくなる。5年後水道料金を上げることも難しい、今後どの様になっていくのか。市が負担することはやむを得ない。

山間部における水道料金が高いことは仕方ない。

県水を使用している地域は安く水の供給ができる。（補足資料による）

今回の料金の改定は仕方ない。しかし、小鹿野会場ではどうなるかわからない。

市の負担についても総合振興計画等により限度額がある。今後、市の負担が増えるのか、それとも料金を上げるのか。

久喜管理者

ご指摘のとおり、一般会計からの繰出を行っている。

秩父市は現在年間2億7百万円の高料金対策を行って、統合後4年間で、8億2900万円4年間水道会計へ入れている。

人口減少もある、今回は先ずは料金統一、5年後には金額について考えていくことになる。

市長就任当初、なぜ水道料金が高いのか疑問であった。秩父は水を作っている。水道管を100Mに対し、利用者は県南に比較し数名しか使用者がいないそのような中で維持していくこと、やはり料金はあがってしまう。

老朽化、これに対してもやらなくてはいけない、広域化による補助を頂きながらやっている。広域化は着実にやっている。成功事例として国からも注目されている。

私の夢、長瀬から県水へ接続し、寄居、江南地域へ、人口減少地域の水、おいしい水を届けられるのではないかと、料金を下げることへの期待もある。

- 以上 -